ISTITUTO FIGLIE DI MARIA AUSILIATRICE
fondato da san Giovanni Bosco
e da santa Maria Domenica Mazzarello

N. 1013

愛する姉妹の皆さま

2022 年のサレジオ会総長のストレンナを、はじめて皆さまに、ご紹介する喜びと誇りを感じております。

「強いられてするのではなく、
なにごとも愛によって行おう。」
（聖フランシスコ・サレジオ）

マードレ・マザレロもストレンナの言葉と同じ路線上にいます。「愛の心があなたに命ずることは、すべて自由に行いなさい。」（手紙 35,3） そして、自らを与え、新たにし、常に創造的な愛の自由という同じ原則を実践しています。

聖フランシスコ・サレジオの帰天四百周年を記念して、その
霊性を深めるための豊富な内容を提供してくださったアンヘル ・フェルナンデス・アルティメ師に深く感謝します。

ジュネーブの聖なる司教は、サレジオ霊性の誕生の源泉となりました。ドン・ボスコは、その事業の最初から、愛想の良い関わり、疲れを知らない使徒的活動、すべての人が憐れみとゆるしの神を知り、この神と出会うようにという願いをこめて、司牧の模範とみなしました。実際、聖フランシスコ・サレジオは、福音宣教に行くことができなかったところに、理解、忍耐強い英知と慈しみ深いやさしさで到着し、非カトリック教徒さえも回心に導くことができました。

ドン・ボスコは、司祭叙階から、そして最初のオラトリオとサレジオ会の創立当初から、彼を自分の保護者と人生の模範として選んでいます。それは、青少年の使命には「非常に穏やかで柔和であること」が欠くことのできないものだったからからです。

ストレンナでは、聖フランシスコ・サレジオの霊性がより意識的に採り入れられ、ドン・ボスコの教育スタイルとサレジオ青少年の霊性の基盤として見定めるための内省の行程が提供されています。

サレジオ会総長は、聖フランシスコ・サレジオの最も革新的な提案は、活動と観想を穏やかに統合させ、日常生活を充実したものとして生き、神によって創造された人間の本性を大切にし、これを通して私たちは神に近づきながら、すべての人に神との親密な関係と聖性を可能にするという、キリスト者に向けた素朴な聖性への招きであることを思い起こしておられます。したがって、サレジオ家族の各グループは、この聖性への呼びかけを、独自の具体的なニュアンスをもってそれぞれの使命に合わせて手を加え、それを生きることができます。

神の愛と隣人愛を中心に置く聖フランシスコ・サレジオのヒューマニズムは、個人的な同伴の重要な側面としての友情を結びながら、すべての人と対話するための望ましい道を開きます。ドン・ボスコはこれを理解し、*「教育は心の問題である」*という総合的な表現に置き換えました。*若者には「愛されるだけでなく、自分自身が愛されていることを知っている」ことが必要なのです。*教育活動の効果はここから始まり、心に届かなければ働きは難しくなり、結果も不確かなものになります。

聖なる司教はまた、摂理への信頼を教えてくれる教師でもあります。それは、日々の出来事や状況の中にある主の現存のしるしを読み取る方法を知ること、そして、主のみ手に身を委ね、すべて

を「聖なる無関心」で受け入れるところまで、絶え間なく訓練することによって身につくものであると教えてくれます。

この同じ信頼は、すべてを希望し、すべてを耐える愛に根ざしたサレジオ会の教育法の土台となっています。なぜなら、若者の人生はまず、傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さなかった（マタイ 12,20 参照）イエス・キリストのみ手にあることを知っているからです。マードレ・マザレロは、「少女たちに対しては、忍耐強い心と、限りのない優しさを持つことです」（手紙 27, 11）という勧告でこれを表現しています。それは、神の働きかけに開かれ、常にいのちの充満へと向かう人間の心に対する信頼からです。

更にストレンナには、聖フランシスコ・サレジオの宣教への情熱を育んだ聖体の霊性を生きるようにという招きもあります。それは、「da mihi animas cetera tolle」の情熱に動かされて魂を探し求め続けたドン・ボスコの福音宣教と教育への情熱を支え、奮い立たせる理想となりました。彼もまた、聖体の中に、そしてマリアの現存の中に、教育的使命を遂行し、それを若者の聖性の道へと変えていく日々の力を見出していたのです。

サレジオ会総長は、聖フランシスコ・サレジオとドン・ボスコとの典型的な調和を強調する上で、またさらに別の興味深い側面を強調しています。それは、文化的に豊かで有能な人々であっても、自分を表現する十分な手段やツールを持たない人々であっても、同じように効果的な関わりを築いていくコミュニケーション力です。

第 24 回総会では、時のしるしと教育と福音宣教の重要な可能性としてデジタル時代を前向きに受け入れること、また、情報文化の力強さを理解し、批判的かつ創造的な考え方を身につけて、意識的に責任ある方法でデジタル環境に住むために、教育共同体として、コミュニケーションの養成を優先させることを約束しました。

もう一つの典型的なサレジオ会的側面は、喜びです。聖フランシスコ・サレジオは、私たちの心と環境の中に喜びと優しさの精神を目覚めさせ、喜んで善を行うことによって喜ぶようにと私たちを招いています。教皇フランシスコは、他の形で同じ勧めを総会議員に下さいました。今回の訪問では、現実に注意深く耳を傾け、必要な状況を把握し、特に「ぶどう酒」、すなわち、愛の喜びが不足している時、言葉ではなく奉仕と親密さの中に、思いやりと優しさをもって、キリストをもたらすようにと呼びかけられました。

ここまで、わたしは皆さまにほんのわずかな点についてご紹介いたしました。これから新年を迎えるにあたり、ストレンナの意味を理解し、実りあるものとするために、これを深めるという課題を皆さまお一人ひとりと、教育共同体の皆さまにお委ねしたいと思います。こうして、聖フランシスコ・サレジオ帰天四百周年にあたり、この歴史の特別な時期に教会に有益で美しい貢献をしたいという願いを込め、サレジアン・ファミリーとしての旅を続けるようにしましょう。

サレジオ霊性のこうした側面を振り返りながら、私たちは会の創立 150 周年をますます先へと進んでいきます。私たちが、多くの苦しみと苦難に彩られながらも、おん父の優しい摂理に祝福されたこの時に、希望の「新しいぶどう酒」をもたらすことのできる女性であるよう、聖母マリアに私たちを委ねましょう。

こうしてサレジアン・ファミリーの源泉を回想する機会を下さいましたサレジオ会総長に、私たち全員に代わり、改めて感謝申し上げます。

サレジオ会の兄弟の皆さま、サレジアン・ファミリーの諸グループの皆さま、教育共同体の皆さまにとって、2022 年が平和で聖なる年でありますようにお祈り申し上げます。

ローマ　2022年１月１日

皆様を愛するマードレ　　Sr. Chiara Cazzuola